

課題を抱える青少年の体験活動

「みんなでつくろう 能登のわ」

1 趣 旨

不登校傾向にある小・中学生が、普段の生活から離れ、国立能登青少年交流の家で寝食を共にしながら様々な自然体験活動を体験することで、自立心やコミュニケーション能力を育成する。

2 ねらい

- ・ 体験活動や創作活動を通して、コミュニケーション能力を高め、自立心を育む。
- ・ 活動を通して先生や仲間、職員と交流することで親睦を深め、よい思い出を作る。

3 日 程

(1) 期 日 1回目 平成24年 7月12日(水)・13日(木)

2回目 平成24年 12月12日(水)・13日(木)

(2) 参加者 1回目 5名 2回目 2名 合計 7名

(3) 研修内容

かほく市教育センター すまいる

9:00	12:00	18:00	20:00	22:00
	まが玉作り 昼食	陶芸(手びねり)	野外炊飯 (焼きそば・海鮮焼)	肝試し
	アーチェリー 昼食	アンケート		

七尾市教育研究所 わかたけ

9:00	12:00	18:00	20:00	22:00
	昼食	クリアキャン ドル	お菓子作り・ 飾り作り・会 場準備	夕食 入浴 休憩 クリスマスの夕 べ
	七宝焼き 昼食	アンケート		



野外炊飯



アーチェリー



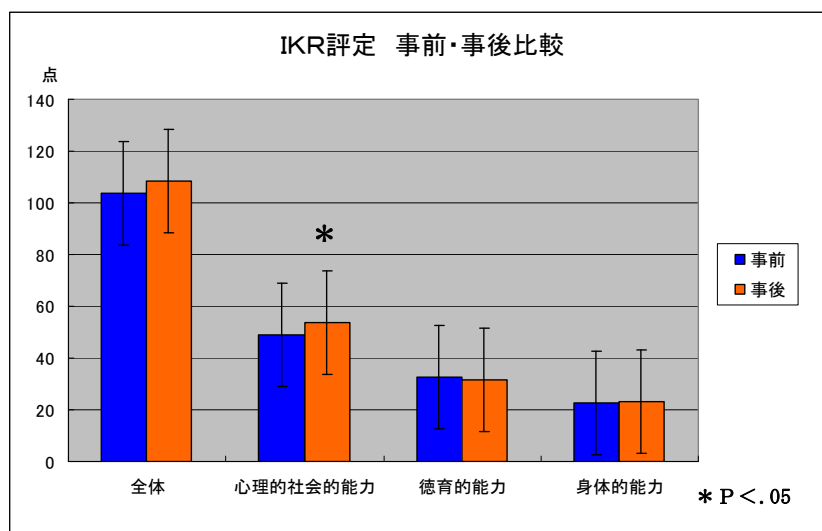
クリスマスの夕べ

4 成果と課題

(1) 事前・事後アンケート結果

参加した児童・生徒に I K R 評定用紙を用い事前調査・事後調査を行った。その結果「心理的社会的能力」の項目で有意性が認められた。「明朗性」「友好・協調」「現実肯定」の項目において顕著な向上がみられた。

能力	人数	事前調査		事後調査		t 値	有意差 (5%水準)
		M	SD	M	SD		
全体	7	103.9	27.7	108.3	31.4	1.083	N・S
心理的社会的能力	7	49.0	15.9	53.6	16.3	2.855	*
徳育的能力	7	32.4	7.9	31.4	10.2	0.668	N・S
身体的能力	7	22.4	5.1	23.3	5.6	0.564	N・S



陶芸 (手びねり)



七宝焼

(2) 成果と課題

- ・ 不登校の生徒を対象に、学校教育では出来ない野外体験や宿泊をすることで、体験活動や創作活動の機会を提供することができたことは大きな成果である。
- ・ 参加者に事後の変容を確認したところ、7月に参加した児童・生徒のうち3名は、徐々に学校に登校するようになっている。
- ・ 国立能登青少年交流の家近郊の2つの施設と協力して事業が行えたことは、本施設が地元の教育に貢献しているといえる。
- ・ 本事業で連携した2団体とも、各施設の年間行事の一つとして今回の事業を行った。そのため、協力施設・能登青少年交流の家のどちらも無理なく自然な形で、日程やプログラムを組むことができた。利便性も良く打合せもお互いの施設を行き来して相談することができた。
- ・ 国立能登青少年交流の家の担当職員も、一緒に活動に加わることで、事業を通して対象児童生徒と交流を持つことが出来た。お互いに良好な人間関係を築けたことは、他者とのコミュニケーションを苦手とする児童生徒にとってはよい経験になり、自信を深める結果となった。事業終了後のアンケート評価も高く、今後も継続して取り組みたい。